

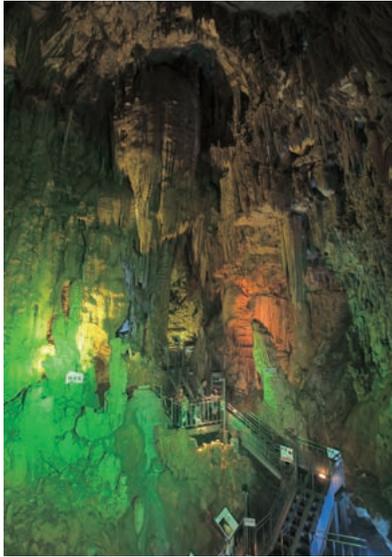
# わが

## 「住みたいまち」の実現にむけて

### 田村市はこんなまち

阿武隈高原の中央に位置する田村市は、豊かな自然と文化に恵まれたまちで、平安時代に征夷大将軍として東征した坂上田村麻呂にまつわる伝説や逸話が数多く残る、歴史ロマンに満ち溢れたまちです。

観光では、市内に2つの観光鍾乳洞があり、1つは国の天然記念物に指定されている「入水鍾乳



およそ8000万年という歳月を掛けてつくられた「あぶくま洞」

洞」。全長約900mの狭い洞内は、本格的なケイビングの醍醐味が味わえる鍾乳洞として人気を博しています。もう1つは「あぶくま洞」。およそ8000万年という歳月を掛けてつくられた大自然が織りなす造形美は、全長約600mの洞内に、天井から大きく垂れ下がる鍾乳石や足元からタケノコのように堆積してできる石筍など千変万化の神秘の世界が広がり、その大自然は訪れる人を魅了し、見る人を感動へと誘います。



爽やかな高原の風を受けて回る桧山高原の風車

東日本大震災の影響により観光客が減少していますが、市内を縦断する磐越自動車道に来年3月の供用開始に向けて「田村中央スマートIC」の整備が進むなど明るい話題もあります。スマートICの供用が観光面に大きな弾みをもたらし、移住・定住・交流人口など関係人口の拡大につながることを期待しています。

### また触れたい自然 田村市の自然

丘陵を形成する阿武隈高原の穏やかな山並み、悠久の時がつくり上げた「あぶくま洞」の幻想美、国の天然記念物「滝桜」の姉妹木

ともいわれ、樹齢約400年の巨木「永泉寺の枝垂桜」の重厚感と地面まで垂れ下がる枝に無数の花が咲く優美なさまは圧巻で、ぜひ一度は訪れてほしい本市の自慢です。また、田畑の中に咲く一本桜「小沢の桜」は古き良き日本の原風景といった佇まいで、傍らには祠と野仏があり、訪れる人の心を和ませます。

また、毎年5月下旬には群生する3万本のつつじが一齐に咲き誇り、多くの登山客が訪れる高柴山、緑の草原に爽やかな高原の風を受けて回る風力発電の白い羽が映える桧山高原、ほかにも多くのネイチャースポットがあり、挙げれば枚挙にいとまがありません。本市の壮大な自然と美しさにぜひ触れてみてください。

また触れたい自然、それが田村市の自然です。

### 働く場の確保と産業の創出

多くの自治体が人口減少問題を抱える中、本市も人口流出の抑制



新たな雇用の場の創出に期待が掛かる「田村市産業団地」

もに市内経済にも好影響が期待されています。さらには、農業が産業として成り立つ上で、農産物のブランディングが重要と考え、GAP (Good Agricultural Practice：農業生産工程管理)の取得や優良地場産品への市オリジナル認定制度

や定住の促進、生活環境の整備などの対策を講じてきており、その成果が少しずつ目に見える結果となって表れてきました。

その1つが、福島県内では初めての空き校舎を活用した複合型テレワークセンター「テラス石森」の開設です。サテライトオフィスのほか、オープンワークスペースの提供、交流イベントなどの開催により、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方や人と企業のネットワークの形成、地域振興につながることを期待しています。また、大手食品企業の進出や大手自動車部品工場の拡張、介護老人福祉施設の開設により、新たな雇用が創出され、関係人口の拡大とともに市内経済にも好影響が期待されています。さらには、農業が産業として成り立つ上で、農産物のブランディングが重要と考え、GAP (Good Agricultural Practice：農業生産工程管理)の取得や優良地場産品への市オリジナル認定制度

の創設を進めており、若い農業者や女性農業者などが活躍できる魅力ある農産業の素地を整えているところ です。

新たな産業、新たな雇用に目を向けるだけでなく、これまでの産業にもしっかりと磨きを掛けて、雇用面での市民の選択肢を確保して、「田村市にずっと住み続けたい」と思っていただけけるような環境整備に挑戦し続けていきます。

## 子育て支援の充実

国でも幼児教育無償化が決定されましたが、本市では国に先駆け、平成18年度から段階的に保育料無料化に取り組んできました。平成21年度からは対象を3歳児以上に拡大しています。本年4月からは、さらなる子育て支援の強化と充実を図るために、幼稚園と保育所に関する窓口を一本化するとともに、妊娠期から子育て期にかけての相談、支援のため「子育て世代包括支援センター」を設置しました。また、これらの窓口には「キッズ・スペース」を設けて、保護者らが安心して相談や手続きを行えるようにしています。

今後は、市が抱える待機児童へ

の対応と市立保育所の老朽化対策として、民間活力による保育所の整備を進め、2020年度には民設民営の第1号保育所として、子どもたちの元気をはぐくむことになっていきます。また、子どもの屋内遊び場の確保も進めていくほか、陸上競技場のインフィールド芝生の開放などにより、子どもたちが伸び伸びと自由に遊べる場の提供も進めていく予定です。

## プロフィール

- ◆ 面積 458.33 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万7460人
- ◆ 世帯数 1万2532世帯

〔将来都市像〕「住みたいまち」の実現にむけて

〔まちの特徴〕福島県阿武隈高原のほぼ中央に位置し、豊かな自然と深い歴史・文化に恵まれた心温まるまち

〔市町村合併〕田村市は、平成17年3月に旧田村郡滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町の5町村合併により誕生



田村市長  
本田仁一



子どもは、保護者や家族にとってもかけがえのない存在であり、地域や私たち行政にとっても宝です。子どもたちが健やかに成長するように、お父さんやお母さんが安心して子育てできるように、そしていつしか子どもたちが田村市に住み続けたい、住んでよかったと実感できるように、子育て支援へのたゆみない挑戦を続けていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

# 「誰も一人にさせないまち」を 目指して

日本の近代化を支えた  
歴史を持つ「横須賀」

横須賀市は、神奈川県南東、三浦半島の中央部に位置し、東に東京湾、西に相模湾を臨み、三方を海に囲まれた温暖な気候と、豊かな自然環境に恵まれた都市です。ペリー来航や日本初となる石造りのドライドックを持つ横須賀製鉄所の建設など、日本近代化の礎



東京湾唯一の無人島「猿島」

よこすか

となった都市でもあり、数多く残る近代化遺産は、往時の横須賀の躍動を今に伝えていきます。

## 横須賀の再興に向けて 横須賀再興プランの策定

軍港都市として発展した横須賀ですが、戦後は旧軍港市転換法により産業用地が大量に供給され、自動車産業や造船業を中心に発展するとともに、住宅需要の増加に伴い人口が増え続けてきました。

しかし近年、首都圏に位置する都市の中では早くから人口減少が表面化し、市街地のにぎわいが低下するなど、市民がまちの将来に対する不安、閉そく感、停滞感を感じている状況が続いていました。このような状況を転換し、市民が将来に対して希望や期待感を持つことのできるまちにしてい

め、重点的、戦略的に取り組んでいくべき政策分野と具体的施策を今後4年間の計画としてまとめた「横須賀再興プラン」を本年3月に策定し、「横須賀復活」に向けて取り組みを進めているところです。

三方を海に囲まれている地の利を生かした「海洋都市」、住む人や訪れる人がワクワクと楽しくなるような「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」、地域の中でさまざまな世代が互いに助け合う環境づくりを目指す「個性ある地域コミュニティのある都市」の3つのまちづくりの方向性を軸に横須賀が持つポテンシャルを開花させていきたいと考えています。こうした方向性の下、海・歴史・文化など本市が有する地域資源の魅力が実感できるようなストーリー性のある仕掛けをつくり、そこ

に音楽やスポーツが持つ人の心に直接響く力を融合させながら、さまざまな施策を展開していきます。

## 「海洋都市」に向けた さまざまな施策展開

プランの中でも、横須賀の「海」が持つ魅力や可能性を最大限に活用することは、本市の再興に向けて最も重要な取り組みの一つとらえています。

東海岸側では、東京湾唯一の無人島である猿島で、今まで入島することのできなかった夜間に、ライトアップされた夜景やライブ演奏を楽しむイベント、また、無人島という特別な魅力を生かしたアートイベントなどを開催します。

また、「海と緑の1万メートルプロムナード」という海沿いの遊歩道を、海を身近に感じることが出来る新たなにぎわいの拠点となるよう、民間と連携した取り組みを進めていきます。さらに、東京湾沿いに点在する近代化遺産などを巡るルートミュージアムの取り



世界のトッププロが競い合う「ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会」

組みも進めてまいります。

西海岸側では、漁港を中心に、新鮮でおいしい海産物を提供する場の整備支援や、ホテルなどの誘致を進めて宿泊施設数の向上を図ることで、市民も観光客も魅力的な地域資源を堪能できるように取り組んでまいります。

このほかにも、スポーツを核としたまちづくりとして、横浜DNAベイスターズ総合練習場の設置や横浜F・マリノス練習場の誘致推進、音楽企業と連携したプロミュージシャンの輩出やアート

フェスティバルといったエンターテインメントの力を生かした取り組みを通じて、まちの活性化に役立てていきます。

### 「横須賀に住んでいてよかった」と思っただけのまちへ

こうした地域経済の活性化に向けた取り組みとともに、横須賀の再興には、福祉の充実を図ることが必要不可欠です。

都市の活力として最も大切なことは、そのまちに住む人々が生き生きと日々の生活を送っているということです。子育て支援や高齢者・障害者施策において、行政としての責務を果たすことは当然のこととして、市民の自発的な活動や住民同士の助け合いが自然と生まれ、「よかった。ありがとう」という、心からの感謝の言葉が飛び交う環境をつくっていくことが、将来に向けて大切な取り組みだと考えています。

プランにおいても、「地域で支え合う福祉のまちの再興」を最重要の施策の一つに位置付け、日常生活での困りごとを支援する住民活動への新たな助成制度など、そ

の機運を高める取り組みを進めていきます。

まちづくりは「経済と福祉の両立」に尽きると考えています。どちらが欠けてもまちは成り立ちません。「横須賀再興プラン」に掲げる政策・施策を進めて、最終的には、日々の悩みや将来の不安を抱えている方々に寄り添うことができる「誰も一人にさせないまち」の実現を目指してまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 100.82 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 39万7736人
- ◆ 世帯数 16万6869世帯

〔将来都市像〕 国際海の手文化都市  
 〔まちの特徴〕 都心からわずか1時間で豊かな自然やレジャーが堪能できるまち

〔特産品〕 スカジャン、海軍カレー、ネイビーバーガー、キャベツ、大根、カボチャ、湘南しらす、佐島の地ダコ



横須賀市長 上地克明



〔観光〕 長井海の手公園ソレイユの丘、くりはま花の国、横須賀美術館、世界三大記念艦「三笠」、YOKOSUKA軍港めぐり  
 〔イベント〕 日米親善よこすかスプリングフェスタ、ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会、よこすかカレーフェスティバル、よこすか開国祭、よこすかみこしパレード



音楽があふれるワクワクするまちづくり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

# 市民の力を結集し オール甲賀で未来につなぐ！

## 日本遺産ダブル認定のまち

日本のほぼ中央に位置する甲賀市は、古くから東海道や伊勢大路といった主要街道が通る交通の要衝として栄えてきました。市内を東西に貫く新名神高速道路には3カ所のインターチェンジが設けら



日本遺産に認定された「忍者」と「信楽焼」

れ、生産拠点としての優位性から企業立地が進み、ものづくり企業の製造品出荷額は11年連続県内1位を維持しています。また、地場産業として「甲賀流忍者」をルーツとする菓業、

日本六古窯に数えられる信楽焼で有名な窯業や、「朝宮茶」「土山茶」などの銘茶の産地としても親しまれています。

さらに、「幻の都」といわれる国史跡の紫香楽宮跡、宿場町の面影を残す町並み、丈六坐像の「甲賀三大佛」など悠久の歴史を伝える史跡・文化財も数多く、平成29年には「忍者」と「信楽焼」が日本遺産に認定されました。

このように地域資源に恵まれた本市の可能性を開拓するとともに、人口減少や少子高齢化による大きな時代の転換期に立ち向かうため、平成29年6月に策定した、第2次甲賀市総合計画に沿って、市民や事業所、自治組織などがまちづくりに参画し、それぞれの力を最大限に発揮できる「オール甲賀」の取り組みを進めています。

## 子育て・教育 ナンバーワンを目指す

人口減少に歯止めを掛けるには、若者の定住と出生率の上昇が欠かせません。本市では、「子育て・教育ナンバーワン」を目指し、結婚・妊娠、出産、育児まで切れ目のない支援を充実させ、「待機児童ゼロ」を維持し続けています。

また、子育て応援医療制度（入院は中学3年生まで、通院は小学6年生まで無料）の拡大や、第2子保育料の無料化など、子育てにかかる経済的負担の軽減を進めるとともに、雨でも遊べる屋内多目的広場を併設した子育て世代包括支援センター「ここも〜り」を整備するなど、子育て中の皆さんの「あったらいいな」が徐々に形になってきています。

## 甲賀流の「稼ぐ」チカラ

市内での消費を促進し、市外からの投資を確保することが、地域



子育て世代包括支援センター「ここも〜り」



ふるさと納税で甲賀市をPR

の中小企業や小売業の振興のためには重要です。そのために、民間投資や地場産業の販路開拓など、市内で頑張る「チャレンジャー」を応援し、新たな産業やビジネスを生み出すプレイヤーを増やすため、甲賀市版特区（規制緩和、特別支援）の検討に着手しました。

また、「甲賀流忍者」は、「クールジャパン・コンテンツ」として世界に通じるブランド力を持っていきます。市内には、全国で唯一の「当時のまま残された」忍術屋敷をはじめ、甲賀流忍者関連の史跡や施設が豊富です。市では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのタイミンゲに合わせて、「甲賀流忍者」を核とした観光拠点の整備に取り組んでいます。

さらに、平成29年10月よりふる

さと納税をリニューアルし、本市の魅力を全国に発信しています。忍者衣装やお墓参りの代行などのオリジナリティの高い返礼品から、人気の高い近江牛や信楽焼まで、幅広いラインアップは大きな反響を呼んでいます。

### 誰もが住み慣れた地域で暮らす

年齢や場所を問わず、誰もが住み慣れた地域で「その人」らしく、いきいきと暮らすためには、福祉・介護の不安の解消と日常の移動支援の取り組みが重要です。

このことから、健康寿命の延伸に向けた健康アプリの導入や民間介護人材の確保、住宅リフォーム補助金などの支援を進めるとともに、公共交通の利便性の改善に向けて、予約型乗合タクシー「コミタク」の導入エリアの拡大や、新名神高速道路を利用した通学バスの実証運行などに取り組んでいます。

### オール甲賀のまちづくり

行政は万能ではなく、行政だけで地域課題を克服し、活気あふれる地域づくりを進めていけるものではありません。市民の皆さんの

知恵と力を結集することがまちづくりの大きな原動力となり、山積する課題を解決できるものと確信しています。

そこで、市民の皆さんや市民活動団体の皆さん、事業者の皆さん等と共に課題を共有し、役割分担しながらオール甲賀の取り組みを進めていく必要があります。それぞれの得意分野を活かしながら、協働することが大変重要です。

### プロフィール

- ◆ 面積 481.62 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 9万1130人
- ◆ 世帯数 3万5092世帯

〔将来都市像〕 あい甲賀、いつもの暮らしに「しあわせ」を感じるまち

〔まちの特徴〕 忍者、信楽焼、有数の歴史遺産、お茶、葉など甲賀ならではの産業が豊かな自然と調和したまち

〔市町村合併〕 平成16年10月1日

〔特産品〕 信楽焼、甲賀のお茶（土山茶）



甲賀市長  
岩永裕貴



朝宮茶、葉

〔観光〕 甲賀の里忍術村、甲賀流忍術屋敷、信楽窯元散策路、東海道の旧宿場（水口宿・土山宿）

〔イベント〕 水口曳山祭（4月）、甲賀流忍者検定（6月）、甲賀夏まつり、しがらき火まつり（7月）、信楽陶器まつり（10月）、あいの土山マラソン（11月）

こうしたことから、市民活動の拠点となる「(仮称)まちづくりコア・ステーション」の建設に取り掛かり、さまざまな市民活動を支援し、協働の取り組みをさらに進めてまいります。

今後も、誰もが夢や希望をかなえ、暮らして幸せや豊かさを感じることができる「オール甲賀のまちづくり」にチャレンジし続けてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## わが

## 「住んで良かった、住み続けたいまち」を目指して

## 中国地方の十字路

三次市は、中国地方のほぼ中心、広島県の北部に位置する人口約5万3000人のまちです。

市街地中央部では、「中国太郎」の異名を持つ中国地方最大の河川、「江の川」など3河川が巴状に交わっています。



鵜匠と鵜が一体となった漁法「三次の鵜飼」

古くから、河川を生かした舟運が盛んで、島根県の石見銀山で産出される銀を尾道市に運ぶ「銀山街道」の沿線でもあり、山陰と山陽を結ぶ交易の地として繁栄してきました。

現在では、「中国やまなみ街道」と「中国自動車道」という縦軸と横軸の2つの高速道路が交差する、「中国地方の十字路」として、拠点性と利便性を生かしたまちづくりを展開しています。

## 生活最優先の市政

全国的な共通課題である人口減少・少子高齢社会の急速な進行によって、本市も幾多の課題に直面しています。特に、集落機能の低下、耕作放棄地の増大といった中山間地域特有の課題が発生しています。

本市では、平成16年の市町村合併以降、広域道路網、情報ネットワーク、美術館や市民ホールなど都市機能を担う社会基盤の整備を進めてきました。

この機能を市民全体の財産として活用しながら、子育て、教育、医療、福祉、定住対策といった、「生活最優先の市政」を進めてきたことで、「住みよさランキング」など各種ランキングにおいて高い評価を得ています。

さらに新たな取り組みとして、本市で生まれ育つすべての子どもたちの可能性を伸ばし、希望を支え、チャレンジを応援することを定めた「三次市子どもの未来応援宣言」を平成29年12月に制定しました。

この応援宣言を基軸として、4月から「ネウボラみよし」を開設し、

妊娠・出産・子育てに関する切れ目のない相談支援を実施し、一人ひとりの子どもたちの成長段階に応じ、継続した支援に取り組んでいます。

また、温泉を活用した歩行用プールを備えた健康増進施設の整備や、健康機器メーカーと連携したプログラムを始めるなど、市民が住み慣れた地域で元気で安心して暮らせるように「いきいき健康日本一のみち」を目指しています。

## 市民の頑張る力がまちの財産

本市の大きな財産は、市内19地域それぞれに設立されている住民自治組織の活動です。

中でも、地域住民自らが出資して会社を設立し、定住住宅の建設や農産物販売所、飲食店を運営している事例、地域の力で小学校の存続を守っている事例、さらには、公共施設の管理運営を行っている事例など、自分たちの力で地域を元気にするための取り組みが形となり、全国的にも注目されて

います。

この頑張る力をまちづくりに生かしていくために、市民との直接対話の場である「地域づくり懇談会」を毎年開催し、1000人近い市民の参加の下で、地域課題を共有し、課題解決の道を市民と一緒に考えています。

また、市職員95名で「地域応援隊」を編成し、地域と行政のつなぎ役として、地域に向き、対話を深め、知恵を出し合いながら活動しています。

## 歴史と伝統を生かしてにぎわいを創出

本市には、県内最多の約4000基の古墳、400有余年の伝統を誇る鶴飼、妖怪物語の「稲生物怪



稲生物怪録の絵巻



2019年春に開館予定の妖怪博物館などで構成する三次地区拠点施設のイメージ図

術アカデミーに展示されることになっており、本市を国際的にPRする絶好の機会として期待しています。現在、三次版DMも設立し、市民とともに歴史や伝統芸術を生かして、活力とにぎわいを創出する仕組みづくりに取り組んでお

録」など、歴史と伝統のある魅力的な地域資源があります。

中でも、「稲生物怪録」は、本市を舞台にした江戸時代から伝わる妖怪の物語であり、全国各地で写本や絵巻物が確認されるなど、多くの人を魅了している貴重な財産です。

本市では、「稲生物怪録」に加え、妖怪研究者から約4800点に及ぶ妖怪資料の寄贈を受けて、これらを展示する「(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次ものけミュージアム)」が2019年春に開館予定です。この妖怪資料は、この夏には、日本とスペインの外交関係樹立150周年記念事業の一環で、スペインの王立美術アカデミーに展示されることにな

## 「今」を支え、「将来」にわたる発展のために

本年度は、第2次三次市総合計

### プロフィール

- ◆ 面積 778.14km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万2776人
- ◆ 世帯数 2万3444世帯

〔将来都市像〕しあわせを実感しながら、住み続けたいまち。中山間地の未来を拓く拠点都市・三次

〔まちの特徴〕中国地方のほぼ中央に位置し、縦軸と横軸の2つの高速道路が交差する拠点性と利便性の高いまち  
〔市町村合併〕平成16年4月1日 三次市、君田村、布野村、作木村、吉舎町、三良坂町、三和町、甲奴町が対等合併

〔特産品〕ピオーネ(ぶどう)、三次ワ



三次市長 増田和俊



〔イベント〕三次さくら祭、三次きんさい祭、みよし市民納涼花火まつり、吉舎ふれあい祭り、霧の海開き、辻八幡神社神殿入

画の策定から5年目を迎え、前半の「総仕上げ」の年に当たります。本市の持つ内なる力と外なる可能性を最大限引き出し、目標達成に向けて全力を注ぎ、成果へと結びつけ、「住んで良かった、住み続けたい」と実感できるまちを実現していきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。